

**第2回 伊勢市バリアフリーマスタープラン
策定協議会
議事録**

令和元年 11 月 6 日

第2回 伊勢市バリアフリーマスタープラン策定協議会

日 時 令和元年 11 月 6 日（水）午後 1 時 30 分から

場 所 伊勢市役所東館 5 階 5 - 3、5 - 4 会議室

委員出席者
(敬称略)

笠原 正嗣
池田 泰幸
高山 勲
高松 靖司
三村 和也
三尾 啓輔
勢力 潤
前島 賢
山本 誠
河之口 学
野口 あゆみ (代理：中山 めぐみ)
小野田 勝巖
上田 雅章
鳥堂 昌洋
須崎 充博 (代理：富岡 由紀)
森田 一成 (代理：久田 浩之)
植村 法文 (代理：中村 元紀)

傍 聴 者 1 名

事 務 局 都市計画課長 荒木 一彦
都市計画課計画係長 大西 正峰
担当 大野 明子

司 会 進 行 事務局 (都市計画課長)

【次第】

- 現況整理およびアンケート等の結果と、移動等円滑化促進地区の候補地区について
- まち歩き現地調査について
- その他

(詳細は別紙のとおり)

【内容】

○現況整理およびアンケート等の結果と、移動等円滑化促進地区の候補地区について

説明

◆事務局

「第2回伊勢市バリアフリーマスタープラン策定協議会資料」1ページ目は、本計画の位置づけについて、国や県の法令・関連計画や市の上位・関連計画についてまとめたものである。バリアフリーマスタープランは、バリアフリー法や国が策定する移動等円滑化の促進に関する基本方針に基づいて策定するものであり、三重県が策定している三重県ユニバーサルデザインのまちづくり推進計画を関連計画として、整合を図る必要がある。また市の上位計画としては、2018年度（平成30年度）に策定した第3次伊勢市総合計画・基本計画があり、関連計画としては、伊勢市都市マスタープラン全体構想のほか、2017年（平成29年度）に策定した伊勢市交通バリアフリー基本構想、伊勢市第5期障害福祉計画・第1期障害児福祉計画、伊勢市第8次老人福祉計画・第7期介護保険事業計画、伊勢市地域福祉計画・地域福祉活動計画などがある。

2ページ目は市の現況について整理しており、市の人口は減少、高齢化率が増加傾向にあり、また障害者等の手帳所持者の推移も年々増加傾向にある。内訳としては、身体障害者手帳の所持者は減少しているが、療育手帳や精神障害者保険福祉手帳の所持者は増加傾向にある。等級別身体障害者手帳所持者の推移については、1級で増加傾向にあり、その他の等級は横ばいもしくは減少傾向にある。所持者数は、1級が最も多くなっている。ほかのデータについては、後ほど移動等円滑化促進地区を抽出する際に指標として利用しているものがあるため、そこで改めて説明する。

3ページ目はアンケート結果についてである。合計4600通送付したうち、回収数は1645通で、約35.8%を回収できた。対象者は16歳以上の市民で、なおかつ障害者手帳保持者、65歳以上の高齢者、5歳以下の子供を持つ世帯、それ以外の4つの分類の市民、それぞれ1150通ずつ配布した。最も回収率が高かったのは高齢者で、最も回収率が低かったのは一般（高齢者、障がい者、子育て世代以外）となった。

結果のまとめとしては、外出の頻度はいずれも高く、主要な行先は、駅周辺では伊勢市駅、宇治山田駅周辺が多くなっているが、駅周辺以外の場所の利用も多いという結果となった。また自動車による移動が主な交通手段だが、徒歩や自転車等も多くなっている。4ページ、主な外出の目的としては買い物や通院、公共機関や銀行、郵便局などへ外出することが多く、障がい者と高齢者は通院が、子育て世代は子育て施設のへの外出が多くなっている。移動をする際に不便だと感じたことについては、通路が狭い、凹凸や段差がある、ベンチ等の休憩施設が少ないが共通して多く、加えて障がい者と子育て世代からは、バス停やバス停やタクシー乗り場・駐車場まで通路に屋根がないことが多かった。

外出時に手助けが必要だと感じたことについては、障がい者、高齢者は、見た目では分からない障がいを理解してほしいという回答が最も多く、乗り物などで席を譲ってほしい、移動で困っているときに声をかけてほしい、障がい衝動からくる行動を見守ってほしいなどの回答が多くなっている。一方で高齢者については、手助けが必要と感じた

ことはないという回答も多く、子育て世代については、乳幼児を連れてある際には配慮してほしいという回答が突出して多くなっている。

バリアフリーのまちづくりに向けて必要だと思うこととしては、バリアフリーへの教育や意識向上、自転車利用のマナー向上、店舗等の意識向上、職員等の対応スキルの向上、情報提供が共通して多くなっている。

市が実施しているバリアフリーに関する取り組みの認知度としては、4つの取り組みのうち1つは知っているという回答が約半数あり、中でも伊勢おもてなしヘルパーと障害者サポーター制度について知っているとの回答が比較的多くなっている。

次に、関係団体ヒアリングについて、市内の輸送事業者、障がい者および高齢者団体並びに伊勢志摩バリアフリーツアーセンターに対してヒアリング調査を行った。ヒアリングにご協力いただいた団体の方々には、篤く御礼申し上げます。

ヒアリング結果について、鉄道事業者へのヒアリングでは、主要な駅でのバリアフリー化や国の基準に基づく施設整備のほか、筆談による対応や従業員の研修の実施状況などを伺った。一方で、無人駅やその他の駅で未対応の箇所があることや、整備や維持更新に関する費用が事業を進める上で課題となっているとのことである。

バス事業者へのヒアリングで、約3分の2の車両が国の省令に適合した車両であり、その内ノンステップバスが約半数を占めること、国の基準に基づく施設整備のほか、障がい者や高齢者への対応マニュアルの用意や、運転手による補助を実施していること、本年度に伊勢営業所管内でノンステップバスを3台導入予定であることなどの実施状況をうかがった。一方、課題として時間や路線によってはバリアフリーに対応していないバスになることがあるということである。

タクシー事業者へのヒアリングでは、バリアフリー対応の車両は無いが、車いすの貸し出しや車いすの格納など、運転手による介助を実施しているということ伺った。

5ページ、団体ヒアリングでは、主に移動で不便だと感じることにについて伺った。どの団体でも駅や鉄道車両、バス停やバス車両、タクシー、市内のバリアフリー対策について、バリアフリー化が足りない部分や、それぞれの障がいの特性などに応じた対応の不足、情報提供の不足や職員とのコミュニケーションや他の利用者のマナーの問題などのソフト面についてなど、様々なことをご不便に感じているとのことである。

肢体および身体障がい者団体の意見としては、施設や道路などでの隙間や段差、バス停に上屋やベンチが無いところ、車いす対応のバスにいつ乗れるのかがわからないこと、タクシー運転手の方の対応や夜間の配車などに不便を感じているとのことであり、また一般の人の駐車マナーについて迷惑を感じているとのことである。

視覚障がい者団体の意見としては、移動経路のわかりづらさやタッチ式・センサー式のトイレの手洗い場や券売機が利用できないこと、マナーの問題や、バス停の点字ブロックの整備不足や案内のわかりづらさ、歩道の勾配などについて、不便だと感じているとのことである。

聴覚障がい者団体の意見としては、エレベーターにモニターが無いと緊急時のコミュニケーションが取れないことや、電車やバスの運行情報の入手など、主に情報に関することに不便を感じているとのことである。

知的障がい者父母の会の意見としては、トイレ・時刻表や運賃表の高さや、駅で気軽に相談できる環境が少ないことのほか、ほかの団体と同様、障がいの特性に応じた施設整備や職員などとのコミュニケーション、案内・情報不足などについて、不便を感じているとのことである。

高齢者団体の意見としては、ほかの団体と同様のことのほか、点字ブロックも整備の仕方・設置個所によっては歩きづらくなることや、道などの凹凸で転倒しやすいこと、杖がレンガの溝に挟まりやすいことなどについて、不便だと感じているとのことである。

伊勢志摩バリアフリーツアーセンターの意見としては、市内の主要な観光地や観光施設について、施設の機能やその数などについて適切な整備が必要であることや、観光地周辺の移動における案内のわかりにくさ、違法駐車や店舗入り口の段差などのバリアの問題、トイレや駐車場が利用できなかった場合にどこを利用すればいいのかなどの情報提供・伝達手段などが、円滑な移動において重要であるとのことである。

7ページからは、ここまでの内容を踏まえて、移動等円滑化促進地区の候補となる地区を抽出する。

まず移動等円滑化促進地区とは、バリアフリーマスタープランにおいて、バリアフリー化を進める地区として位置付けるものである。この地区を選定するときの要件が、バリアフリー法により、3つ定められている。

要件（1）は、生活関連施設、つまり高齢者や障がい者がよく利用する旅客施設や官公庁施設、福祉施設などが地区内にあり、なおかつそれらの施設間の移動が通常徒歩で行われる地区であることである。

要件（2）は、高齢者や障がい者の方がよく利用する施設や施設間の道路についてバリアフリー化を促進することが特に必要であると認められる地区であることである。

要件（3）は、その地区でバリアフリー化を促進することが、市全体の機能を高める上で有効かつ適切であると認められる地区であることである。

促進地区の選定にあたっては、平成29年策定の伊勢市交通バリアフリー基本構想で五十鈴川駅周辺地区を抽出したときの考え方を踏まえつつ、先ほどの3つの要件それぞれについて、7ページの右側に記載している評価指標を設定した。

評価指標（1）について、高齢者や障がい者、子供連れなどが多く利用する地区はバリアフリー化の必要性が高いと考えられることから、駅周辺地域でこうした人々がよく利用する施設がどれだけあるかを指標とした。

評価指標（2）については、公共交通機関の利用が多いほどバリアフリー化の必要性が高いと考えられることから、鉄道駅やバス停の平均乗降客数を指標とした。

評価指標（3）については、バリアフリー化促進が市全体の都市機能増進を図るうえで有効かつ適切かどうかを評価するため、都市計画の基本方針である伊勢市都市マスタープランでの位置づけと、観光客の入込数を評価指標とした。

8ページでは、これらの評価指標を用いて、評価および順位付けを行った。選定フローとして記載しているが、まずそれぞれの評価指標について分析し、促進地区として必要な機能を持った駅がどこか、分類・場合分けした。やり方としては、8ページの右上に記載しているとおり、それぞれの評価指標に基準値を設定し、その基準を満たしてい

るか否かをまず判断した。またその判断とあわせて、8ページ右下の評価指標ごとの評価基準の表に基づき、順位の高い方から3点、2点、1点と、順位づけを行った。

9ページは、各指標の評価の結果である。

(ア) の障がい者などが主に利用する駅周辺地域かどうかという点については、アンケート結果から分析したところ、最も多くの方が回答している駅は、伊勢市駅、次いで宇治山田駅、宮川駅という結果となった。

(イ) の生活関連施設候補数については、駅から徒歩圏内、つまり駅を中心とした半径1.4キロメートルの円の中に高齢者や障がい者が利用する施設がいくつあるかを確認した。最も多いのが伊勢市駅、次いで宇治山田駅、宮町駅という結果となった。

(ウ) の、鉄道駅の日当たりの平均乗降客数については、最も多いのが伊勢市駅、次いで宇治山田駅、明野駅という結果となった。

(エ) の、バス停の日当たりの平均乗降客数は、駅から移動可能な高齢者徒歩圏内として、駅を中心とした半径500メートルの円の中に該当するバス停のうち、最もバス利用客数が多いのは、宇治山田駅前バス停で、次いで二見浦表参道バス停という結果となった。

10ページ、(オ) の都市マスタープランの位置づけについては、都市交流拠点として宇治山田駅と伊勢市駅周辺、地域交流拠点として小俣駅と宮川駅、二見浦駅、市民交流拠点として五十鈴ヶ丘駅が位置づけられている。

(カ) の観光入込客数については、最も多いのは伊勢神宮のアクセス駅である宇治山田駅と伊勢市駅で、次いで二見興玉神社のアクセス駅である二見浦駅という結果となった。

11ページでは、これらの結果を一覧表にしている。各要件で評価基準を満たしたのは、伊勢市駅、宇治山田駅、二見浦駅の3つとなり、また評価点の合計から見る総合順位も、1位が伊勢市駅、2位が宇治山田駅、3位が二見浦駅となった。これらのことから、隣接する伊勢市駅と宇治山田駅は、両駅を合わせたエリアを一つの地区として設定することとし、伊勢市駅・宇治山田駅周辺地区、二見浦駅周辺地区の2地区を、移動等円滑化促進地区の候補地区として設定する。

意見・質問

(質) 委員

アンケートでは障がい者を調査対象としているが、障がいの等級は関係なく配布したのか、障害者手帳所持者から無作為抽出を行ったのか。

(答) 事務局

障害者手帳所持者の中から無作為抽出を行った。等級毎に人数を決めて抽出した訳ではない。

(質) 委員

候補地区を設定するにあたり、10 ページに都市マスタープランにおける都市交流拠点、地域交流拠点、市民交流拠点の位置づけについて記載されているが、これらの違いは何か。この3つは重要な拠点であると考えられるが、何をもって交流拠点と呼ばれているのか。国の基準や市の基準があるのか。

(答) 事務局

本市では集約型都市構造という各拠点に様々な機能を集約するという方針としており、中でも市の中心部を特に重要な都市交流拠点、最も都市機能を集める核としている。その他にも小俣・二見・御園総合支所周辺を地域の拠点として位置づけている。市民交流拠点は、都市計画公園の倉田山公園周辺を位置づけている。

(意) 意見

駅周辺約 1.4 キロメートルとあったが、大体どのあたりまでの範囲が含まれるのか。

(答) 事務局

資料集「伊勢市の現況」20 ページから、伊勢市駅、宇治山田駅それぞれから約 1.4 キロメートルの圏内を図示している。伊勢市駅からは、北は赤十字病院まで、南は三重県伊勢庁舎、東は神宮徴古館周辺、西は山田上り口駅手前までが 1.4 キロメートルの範囲になる。宇治山田駅からは、北はミタス伊勢、東は伊勢警察署、南は三重県伊勢庁舎よりももう少し南、西は伊勢図書館周辺となる。二見浦駅については、17 ページに記載しており、北は海であるので海岸までとなり、東は伊勢シーパラダイス、南はサンアリーナ周辺、西は光の街といったエリアとなる。

(質) 委員

1.4 キロメートルという数字の根拠は何か。国などの指標になっているのか。

(答) 事務局

国の基準で定められている。

(質) 委員

アンケートについて、個人的にはではあるが、車を利用していると宇治山田駅や伊勢市駅周辺は日常的にはあまり利用しない。ララパークやバロー周辺など、公共機関利用以外でも市民が良く利用する施設についても抽出してはどうか。

(意) 会長

あくまでも今回は公共交通機関に視点を向けている。確かにアンケート結果においても自動車利用が非常に多かったが、今回のバリアフリーマスタープランについては、鉄道・バス等の公共交通機関を基本とするためにこのような形となつてのではないかと推

測する。今のご意見に対して、事務局いかがか。市民目線からはもっと違った結果が生じるのではないかというご意見であるが。

(答) 事務局

バリアフリーマスタープランは、基本的に鉄道駅などの旅客施設を中心として、生活関連施設との間を通常徒歩で移動することを前提とするものである。ララパーク周辺は、鉄道駅から離れたエリアであることから、今回は対象外となっている。

(意) 会長

市民目線という点から考えると、今の委員からのご意見のような視点は今後必要になってくると思われる。非常に有用なご意見であることから、今後の検討課題として考えていただければありがたい。今後の社会を考える上で必要になる『脱・自動車』という視点を加えていけば、バス・鉄道に比重を置いた計画は、検討に値するのかもしれない。喫緊の課題ではなく、将来社会において考える必要があるものである。

今のアンケート結果について、事業者の方にもお尋ねしたいが、いかがか。

(答) 委員

バス車両のバリアフリー化は、3分の2がワンステップまたはノンステップバスであり、今後導入する新車については、すべてバリアフリー対応となっている。今すぐにバリアフリー化を100%にすることは出来ないが、順次進めているところである。

(意) 会長

アンケート結果の中に、どのバスがバリアフリー対応か分からないという意見があったが、問い合わせをすれば教えてもらえるのか。それともその日の乗降客の状況によって配車に変更があるのか。

(答) 委員

各バス停に時刻表が掲示してあり、車椅子で乗車の場合として、弊社の伊勢営業所の電話番号を記載しているので、ご連絡いただき、何月何日何時の利用ということを申し出ていただければ、その時間に配車させていただいている。

(質) 会長

ある程度臨機応変に対応いただいているということか。

(答) 委員

直接お電話いただければ、その時間に配車している。

(意) 委員

観光客を相手に仕事をさせていただいていることから、ヒアリングについて、観光客

メインでの回答をしている。二見方面への問い合わせが最近多い。今回二見駅周辺地区を候補地区として抽出したことについて、これから施策が二見周辺で進むと、まち歩きを薦めやすくなると思い、期待している。また二見浦駅がバリアフリー化されていないので残念だが、将来に期待したい。それもあって二見方面はバスの利用が多く、CAN ばすはイレギュラーなことが無い限りほぼすべてノンステップバスが運行されていることから、車椅子の方にも多数利用いただいている。バスで二見に行き、バリアフリー化されたまちを歩いて観光いただき、市民の皆様にも楽しんでいただく。そういった面で今後の二見地区のまちづくりに期待している。

(意) 会長

今回、二見浦周辺地区が抽出されているが、観光という面で、今のご意見から有用性が立証されたのではないかと思う。アンケート結果について、この場で細かい部分を確認することは難しいと思うが、せっかく実施したアンケートであるので、今後の市政にも是非活かしていただきたい。このようなバリアフリーという観点から実施されたアンケートは、これまでも事例があるのか。

(答) 事務局

都市計画課以外についての把握はしていないが、都市計画課としては前回の伊勢市交通バリアフリー基本構想策定時には実施しておらず、今回が初めてとなる。

(質) 会長

今回のアンケート結果は、事務局の想定どおりであったか。それとも意外なものであったか。

(答) 事務局

地区については、伊勢市駅・宇治山田駅周辺、それから二見浦駅周辺についても、近年の二見への観光客の増加を考えると、概ね事務局の想定どおりである。アンケートの結果で想定していなかったものとしては、高齢者から手助けは必要ないという回答があったことである。

(意) 会長

結果を見たときに、元気な高齢者が多いのだと思った。回答者の年齢も回答にあるので、それを詳しく見れば、どういった方が回答しているのかが分析できると思う。アクティブシニアという元気な高齢者が多く、手助けが必要ないということは私も感じており、時代の流れであると思う。ただ人間いずれは年をとるので、しっかりとした整備計画をもってまちづくりをしていくことの必要性については変わらないと思うので、しっかりとやっていただければありがたい。

この結果について、自分で数字をグラフの横に書いて並べてみたが、年齢別、障がい別、一般や子育て世代など、違いが出てくる部分がある。そういった相違点を今後分析

いただいて、整備の部分で必要とする人達に対応したバリアフリー化を進めていく必要があるのではないかと思う。例えば 74 ページなど、移動手段についてであるが、車の利用が多いのは一般の方や子育て中の方で、自分で運転するのは高齢者の方では少なくなっている。障がい者の方は 26.3%で少ない。このように、移動手段についても人によって違うということが、グラフを 4 本並べてみれば分かることなので、面倒な作業ではあるかもしれないが、全ての項目でとは言わないが、障がい者、高齢者、子育て世代、一般の 4 分類をひとつにまとめて比較するグラフを作成すればそれぞれの違いが明らかになると思う。そういった分析も、今すぐとは言わないが、今後の課題としてやっていただければありがたい。

候補地区の抽出としては、伊勢市駅・宇治山田駅周辺、二見浦駅周辺としたことについて、この協議会の中でもご理解を得られたのではないかと思う。

それでは、事項書の 1 項目目、「現況整理およびアンケート等の結果と、移動等円滑化促進地区の候補地区について」は、事務局案で 2 地区を抽出いただいたが、委員の皆様にご合意いただけたということで、議事を次に進める。

【内容】

○現況整理およびアンケート等の結果と、移動等円滑化促進地区の候補地区について

説明

◆事務局

資料 12 ページ、11 ページで選定した伊勢市駅・宇治山田駅周辺地区と二見浦駅周辺地区の 2 地区について、委員の皆様にごまち歩きによる現地調査を行っていただきたいと考えている。日程については、後日調整させていただく。資料はルートや時間配分について事務局案として作成したものである。この案について、委員の皆様からご意見を頂き、それをもとに内容を修正し、調査当日までに確定したものをお配りしたいと考えている。また伊勢市駅、宇治山田駅、二見浦駅について、鉄道駅の内部も検討しているが、それについては鉄道事業者と協議し、鉄道利用者への迷惑がないように、また安全上の問題に注意しながら進めていきたい。

主なルート設計の考え方について、それぞれの地区において、2 ルートを考えた。伊勢市駅・宇治山田駅周辺地区について、ルート 1 は観光客向けを主として想定したルート、ルート 2 は市民向けを想定したルートである。二見浦駅周辺地区は、観光客と市民の主な動線を想定し、二見総合支所から駅や主要な施設をめぐるルートを作成した。

13 ページは、伊勢市駅・宇治山田駅周辺地区のルート図である。ルート 1 の観光客向けのルートは、伊勢市役所をスタート地点とし、外宮参道から伊勢市駅を経て、現在市街地再開発事業を実施している三交イン周辺を確認し、県道鳥羽松阪線を南下して外宮前まで進み、税務署前を通過して伊勢市役所をゴールとするルートである。ルート 2 の市民向けのルートは、伊勢市役所をスタートし、みずほ銀行向かいの交差点を北に折れて宇治山田駅を経て、吹上の踏切のそばの道路を通過して伊勢市駅周辺を回り、コンフォー

トホテルの前を通過して、商工会議所の方へと進む。商工会議所前の交差点を東に折れて宇治山田駅の方へ向かい、観光文化会館、現在の名称はシンフォニアテクノロジー響ホールであるが、その前をゴールとするルートである。ルートの一部、宇治山田駅を出てから吹上の踏切を経て伊勢市駅の方へと進み、信号のある交差点までの区間については、歩道が無い上に車の通行が多く安全確保上に問題があることから、速やかに移動していただくこととして、立ち止まったりしながらの調査は行わない区間として考えている。

各ルートの合計移動距離は、ルート1も2も同じで、1.9キロメートルとなる。

14ページは、時間配分表である。開始時間などは想定であり、事前説明や、休憩、まち歩き後の意見まとめの時間を含めて、所要時間は3時間15分程度で考えている。

15ページは、二見浦駅周辺地区である。ルート1は、二見総合支所をスタート地点とし、二見浦駅を経て、二見生涯学習センター周辺や、二見公民館、二見体育館周辺を確認したのち、夫婦岩表参道を二見興玉神社の方へ進み、賓日館の付近をゴール地点としている。ゴール地点までが調査対象区域となり、その後は二見総合支所まで戻っていただくという形になる。ルート2は、伊勢シーパラダイスをスタート地点とし、二見興玉神社内を通過して賓日館の前を通り、ルート1でゴール地点としたT字路を南に折れ、国道42号を通過して二見総合支所をゴールとするルートである。両ルートとも、合計1.5キロメートルのコースである。

16ページは、二見浦駅周辺地区の時間配分表である。こちらも、事前説明やトイレ休憩、まち歩き後の意見まとめの時間を予定しており、それらを含めて所要時間は2時間45分程度を考えている。

まち歩きについては、日程とルートを調整の上、後日皆様に資料を送付する。もしご都合が付かない場合などには、ご連絡いただきたい。

17ページは、今後のマスタープラン策定までのスケジュール表である。前回第1回協議会資料で配布したものとおおむね変わりはないが、当初の予定よりも庁内検討会を1回多く実施しており、第2回協議会後のスケジュールとしては、まち歩きを2回、12月頃にそれぞれ別の日に実施し、来年2月頃に第3回協議会を開催し、まち歩き結果の報告とマスタープランの基本方針案について、協議いただきたいと考えている。本年度はここまでで、第4回以降の協議会は来年度お願いすることになる。第4回、第5回、第6回で案を取りまとめいただき、その案について市民のご意見をいただくパブリックコメントを1か月実施し、その後第7回協議会にてパブリックコメントの結果報告と全体のまとめを行っていただき、令和2年度末に策定公表することを予定している。

意見・質問

(意) 委員

伊勢市駅・宇治山田駅周辺地区について、みずほ銀行の近くの歩道について、東西は車椅子でも通行しやすいが、南北の道はハードルが高いように思う。簡易裁判所や百五銀行周辺はまだ通行しやすいが、市役所側に南北に渡る横断歩道は段差が大きい。交差

点は東西と南北の両方向を確認する方が良いと思う。

(意) 会長

今のルート案では通りにくさが分かりにくいということで、あえて段差のある方にいく方が良いのではないかということである。

(答) 事務局

今の意見を受けて、ルートを検討する。

(意) 会長

歩きにくいところを発見するのが今回の調査であることから、貴重な意見であったと思う。

(質) 委員

伊勢市駅と宇治山田駅がコースに入っているが、すべてのホームを確認するのか。

(答) 事務局

想定としては、すべてではなく、いずれか片方のホームを選択して確認したいと考えている。

(質) 委員

調査範囲は駅の南側が多いが、北側をルートに含める予定はないのか。

(答) 事務局

まち歩きをしていただいてマスタープランに位置づけるエリアを設定し、最終的には段差など具体的な部分を解消するバリアフリーに取り組むことになるが、それをすべて今回のまち歩きで確認するのは難しい。今回のマスタープランは、基本的な方針を定めるものであるので、そういった視点で確認いただき、ハード整備についてはマスタープランを策定後に基本構想を実施計画として策定していくことになる。そのときには、具体的にどの場所をどのように、どの管理者が整備するのかということまで定めることから、今回のマスタープランでは箇所を絞って確認いただく。

(意) 会長

今回は代表ルートで実施し、マスタープラン策定後に具体的な整備を進めていくということである。

(質) 委員

スタートとゴールが離れているようなところは、ゴールしてからスタート地点へは歩いて戻ってくる予定なのか。

(答) 事務局

伊勢市駅周辺のルートについては、ルート1についてはスタートとゴールを伊勢市役所に設定しているの、そのまま戻っていただく。ルート2については、ゴールが観光文化会館で、スタート地点である伊勢市役所から徒歩5分程度となっていることから、徒歩で戻っていただきたいと考えている。二見浦周辺地区については、スタート地点とゴール地点が離れている。ルート1については、二見総合支所をスタートし、ゴールが賓日館手前になるので、可能な方は歩いて帰っていただき、事務局の方で大きめの車を用意しようと考えているので、お帰りが困難な方については車でお迎えをさせていただきたいと考えている。ルート2については、スタート地点が総合支所からかなり離れていることから、事務局で何らかの手立てでお送りさせていただきたいと考えている。

(質) 委員

そうすると、伊勢市駅周辺で1.9キロメートル、二見浦駅周辺で1.5キロメートルという距離は、移動困難な場合は送迎があると思ってよろしいか。

(答) 事務局

はい。

(意) 会長

ルートの設定はこれでよろしいか。例えば二見の方は。

(質) 委員

ルート1とルート2で、青色の方が観光客向けで、緑色の方が一般市民向けということだが、二見浦の方は逆のように思う。青色の方が一般市民向けで、緑色の方が観光客向けに見えるのだが。

(答) 事務局

伊勢市駅周辺については、先ほどの説明通り市民目線と観光客目線に分けたが、二見浦駅周辺地区については、市民も観光客も含めた目線として、距離でルートを分けさせていただいている。

(質) 会長

ルート1、ルート2とあるが、これは同時開催で2ルート同日に実施するというものでよいか。

(答) 事務局

そのように想定している。

(質) 会長

委員に参加いただく場合、ルート1と2の配分は、委員の希望か、事務局で分けるのか。

(答) 事務局

事務局である程度振り分けさせていただき、その中で都合が悪いようであれば、調整させていただきたい。

(質) 会長

調整は、歩く部分の難易度などによるということか。

(答) 事務局

そうである。補足であるが、二見のルート2について、興玉神社の境内は足元が玉砂利になっており、歩行がやや困難な状態になっている。早めに案内を出させていただき、ここの移動についても、事務局で何らかの手配を行いたいと考えている。

(意) 会長

まち歩きについて、対象の地区は伊勢市駅・宇治山田駅周辺地区でルート1と2で市民目線と観光客目線として、二見浦駅周辺地区については市民目線・観光客目線同一の形でエリアを変えて実施することとしたい。日程については皆様に都合を伺うこともあろうと思うが、2地区へのまち歩きへの参加をお願いしたい。

○ その他

■ 議事録等の公開について

議事録要旨と資料、名簿を伊勢市ホームページ上に掲載することについて了承された。

■ まち歩き現地調査について

12月頃に2日間に分けて実施する。ルートやスケジュールについては、後日郵送する。

■ 共生社会ホストタウンについて

伊勢市は共生社会ホストタウンに登録された。相手国はラオスであり、2020年にパラリンピックが開催されることから、ラオスのパラリンピック選手チームと交流し、それをきっかけに障がいの有無に関わらず誰もが暮らしやすいまちづくりを加速していくことを目指しての取り組みである。

■ 次回協議会開催について

令和2年2月を予定している。

意見・質問

(意) 委員

ラオスを相手国に選定した理由は何か。

(答) 事務局

候補国が各競技にあり、様々な国とマッチングを行った結果、ラオスに決定した。当初は別の国が候補に挙がっていたようである。

<閉会>